

# 乳児院 慈愛園乳児ホーム 2022年度 事業報告

## 1 総括

新型コロナウイルス（以下コロナ）については、第7波から職員の罹患が目立ち始め、後遺症によって就労継続が困難になり退職する職員も発生した。第8波ともなると家族や本人のコロナ罹患が増え始め、残った職員が休日返上で働くことでなんとか乗り切ることが出来た。私感では第8波の感染状況は今までで一番酷かったと思われる。何度か現場に感染が広がる可能性のある事案が発生したが、運の良いことに乳児ホームではコロナ感染が入所児童内に一度も発生していない。県内社会的養護施設の中でも本園だけがコロナ発生の無い施設となっている。これもひとえに職員達の日頃の感染対策に尽力してきた結果であるが、現状、コロナの感染がなくなったわけではない為、引き続き緊張感を持って対応したい。遅まきであるが今年から感染対策として職員に対する週2回の抗原検査を行うこととした。このようなことから入所児への処遇は感染症対策を基本とした養育となっている、つまりは自由の効かない縮小傾向の養育と言っているだろう。この三年間、運動会も旅行も行わず、子どもたちの経験としては以前と比べると少ないのは明白であり、申し訳なく思っている。国は5月に感染症レベルを落とすことを宣言しているが、コロナ用の抗ウイルス剤が一般的に手に入らない状態であれば乳児ホームの対応としては来年度も何も変わらない。

今年も職員確保については前年度同様というより、更に悪化している。春先に入職した職員のほとんどが早期に体調不良により退職するという結果になってしまった。面接では健康状態の確認を行い、正常との回答を得ているのだが、職員らは何らかの持病を抱えて入職していた。12月に行った職員に対する無記名アンケートではかなりの不満が職員から上がってきていた。その殆どが新職員（既に退職した）に対する不満と面接方法、施設長に対する不満であったが、対応できること対応できないことを全てを職員に説明することとなった。このようなことから指導する側の職員の疲弊が目立ち、職員から不満が多くあがった為、面接での誓約書と簡単な小論文試験を導入した。被験者に対する効果は不明だが、在籍職員は納得したようだ。また、労基的内容に対する職員の知識のなさが目立った為、分かりやすい関連書籍を購入し配備した。

最後に「熊本乳児院虐待報道」について述べさせてもらいたい。本報道は私たちにとってもショッキングなものであったが、同時に日々の私たちの養育に対して警鐘を鳴らす報道でもあった。確かにマスコミ情報の熊乳の養育は内容的には問題のあることではあるが、乳児ホームでは子どもに対して正しい養育を行っているのかといった疑問が残る点であろう。内容的には軽微なものであるが系統的には同じ事が行われているのは、職員自身も感じている。「大声を出す」「手を引っ張る」「無理に食べさせる」これらのことは報道でも問題視されていたが、本園でも行われているのが現実である。内容的に軽微で、事故につながっていない現状では虐待の範疇に入るかどうかは職員の判断であるし、処遇内で何故そうする必要があるのであるのかという点についても職員の判断である。しかし、グレーな養育というのは排

除していくべきであり、本園には「養育基本方針」というものがある、これを矜持として働くことが乳児ホーム職員の姿であると明示してある。これに照らし合わせ考えれば、そのような独善的な考えが許されるはずは無い。自分達の仕事が「子どもが中心」であると考えてるのが如何に難しいか、しかしそれを職員一人一人が考え、自覚することによって、養育の質は向上するのだと私自身は考える。

## 2 主な取り組みと評価

### (1)職員処遇

- コミットメントシート（企画書）の提出も増え、前年度に比べると職員の自発的な動きが見られるようになった。自己評価に関してはコロナの為、会議の中止が多く、全員で行うことが出来ず、自己判断となった。この為、評価に不均衡が起り正しい理解に結びつかなかった。本園は昔から一般職員も調理に入ることがあるが、これが退職理由になることが多くなってきた。入職前に説明はしているが時代的にも料理が苦手な人が多くなったのだろう、考え方を変える必要があるかも知れない。

重点目標	評 価	理 由
職員処遇	△	人材確保が難しく勤務体制に影響が出た。

◎達成できた、○ある程度は達成できた、△（あまり）達成できなかった（以下同様）

### (2)処遇改善

- 入所児のコロナ感染は今年も発生していない。職員の感染に対する努力が感じられる。上記したように感染予防の為、養育環境は縮小傾向になっている。施設内虐待については今回の熊乳の件で本園職員としても戒めがあったと思える。毎日の養育の中で子どもを中心に考えることの重要性を今一度、振り返って欲しい。乳児のおもちゃ等の買い換えを行う、幼児のおもちゃ等についても点検を行った。

重点目標	評 価	理 由
処遇改善	○	コロナの影響だが以前のような自由な保育は出来ていない。

### (3)多機能化

- 今年度プロポーザル更新し再度、県からの委託となった。フォスタリング機関「養育家庭支援センターきらきら」と他フォスタリング機関との合同講演会を開催、200名近くの参加があった。里親委託、登録に関しても随分、増えてきた。多機能化というより方法論の問題かもしれないが一時保護委託は全国的に乳児院は増加傾向にあり、措置児童を超える数字となっている。ショートステイ、病児保育利用はコロナ禍前に比べると少ないが徐々に戻しつつある。乳児院は利用施設としても国民の利用ニーズ応えられる施設になら

なくてはならない。

重点目標	評価	理由
多機能化	○	フォスタリング機関が安定。

#### (4)コロナ対策

○ 全国的には今年度も乳児院でのクラスターがかなり多かった。そういった中でも本園ではコロナ感染は今年度も発生していない。これは感染対策の実績として他施設（九州）からも高い評価を受けている。紫外線空気清浄機の部品交換を行い、その他感染予防備品についても追加購入を行った。

重点目標	評価	理由
コロナ対策	○	厳しい対策を行った。

### 3 サービスの利用状況

#### (1)本体在籍状況 ①初日 ②退所 ③入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
①	13	12	11	13	13	13	13	14	14	14	12	13	155
②	1	3	1	2	2	1	2	1	0	2	1	4	17
③	0	2	3	2	2	1	3	1	0	0	2	1	17

#### (2)子育て短期利用事業 ①ショート ②利用人数 ③レスパイト

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
①	3	2	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2	12
②	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	5
③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

#### (3)病児保育 ①2022年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
①	0	0	3	1	0	2	2	20	28	17	37	19	129

#### (4)もうすぐパパママ教室

新型コロナの影響により全面的に中止とした。

#### 【サービスの利用状況総評】

コロナの影響でショートステイ利用は伸びなかったが、病児保育利用については11月から伸び始めている。来年度はコロナ禍以前近くの利用があるかも知れない。

## 4 苦情・事故・インシデント

### (1)2022 年度苦情受付件数

なし

### (2)インシデント・アクシデント

レベル-1 (事故)

擦過傷-1 指つめ-3 噛みつき-11 誤食-1

授乳種類選択ミス-2

レベル-0 (インシデント)

縫い針の未収納 (プレイルームに落ちていた)

### 【事故対応の状況総評】

今年度はいつも多い誤薬がないことは良かったのだが噛みつきが 11 件とかなり頻度で見られた。加害児童はほとんどが同一児童であったのだが対応が出来ていなかった。

## 5 行事等・研修

4月		法人新人研修
5月	子供の日	動物園遠足 CW 部会新任研修
6月	園内活動	日本キリスト教児童福祉連盟研修
7月	七夕	全国乳児院研修
8月		SV 研修 メンタルヘルス研修 子育てワークショップ
9月	園内行事	OJT 研修
10月	ハロウィン	全乳協議会 里親全国大会
11月	園内活動	子どもの虹指導者研修
12月	クリスマス	社会的養護職員研修
1月	正月	初任者研修
2月	節分	FSW 研修 相談面接技術研修
3月	ひな祭り	乳児院医療看護研修

## 6 施設設備等

場所	内容	価格
エーネホーム	補修・塗装工事	¥ 1,151,370
	トイレ・洗面台取替	¥ 814,000
乳児ホーム本体	ウッドデッキ塗装工事	¥ 269,500
	屋根改修工事	¥ 697,950

